

滝千春ヴァイオリンリサイタル

ヴァイオリン一本で奏でる3つの世界

バロック、現代、そして柿沼唯

ビーバー：パッサカリア（「ロザリオのソナタ」より）

H.I.F.von Biber: Passacaglia (from "Rosary Sonata")

エネスコ：ルーマニア民俗様式によるメロディー

G.Enescu: Airs dans le genre Roumain

シャリーノ：6つのカプリッচョ（1976）より第2曲

S.Sciarrino, 6 Capricci (1976) no.2



柿沼唯

柿沼唯：幼子われらに生まれ（2006）

Yui Kakinuma: Puer natus est nobis (2006)

柿沼唯：サルヴェ・レジナ（2018・世界初演）

Yui Kakinuma: Salve Regina (2018 world premiere)

J.S.バッハ：無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第2番ニ短調 BWV1004

J.S.Bach: Partita for solo violin № 2 in D minor, BWV1004

2018.12.1 (SAT)

15:00 START 14:30 OPEN

聖グレゴリオの家 聖堂

入場料:2,000円(当日2,500円)

全自由席

聖グレゴリオの家とは

聖グレゴリオの家は、1979年9月に独立宗教法人として故ゲレオン・ゴルドマン神父（フランシスコ会）によって設立され、祈り、研究、教育という3本の柱から成り立っています。その目的は、祈り、典礼を祝いながら、教会音楽の研究、保存と普及、教育を行うことにあります。

聖グレゴリオの家賛助会

故ゲレオン・ゴルドマン神父によって創設された当研究所は、神父の母国ドイツや諸外国からの物心両面の支援に頼って参りました。しかしながらゲレオン神父の帰天と援助をして下さった方の高齢化、世代交代に伴い、その支援は必然的に細りつつあります。海外の支援に頼るのではなく日本社会の中で聖グレゴリオの家の活動を支えていくために賛助会は2009年に発足しました。



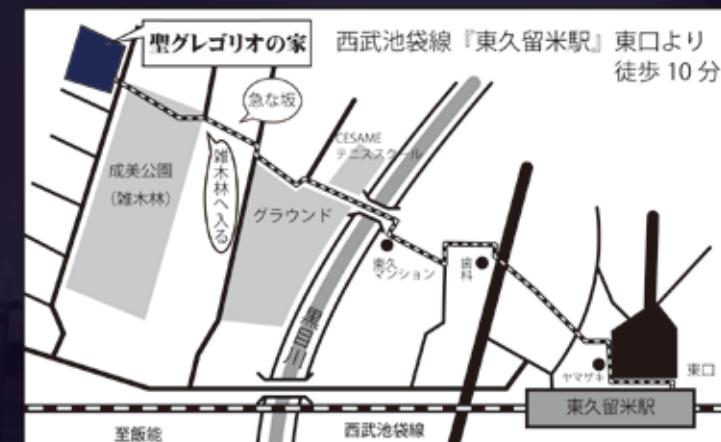
お問い合わせ・チケットお申込み

お電話にて、または「お名前、ご住所、枚数」をご記入の上FAXでお申し込みください。チケットをお送りします。また、聖グレゴリオの家ホームページの資料請求フォームからもお申込みいただけます。

聖グレゴリオの家 〒203-0004 東久留米市氷川台2-7-12

TEL:042-474-8915 FAX:042-474-8832

<http://st-gregorio.or.jp/>



昨年の11月から12月にかけて、ヨーロッパから一時帰国中の滝千春さんのヴァイオリンを聴く機会が、立て続けに3回ありました。その時はじめて弾いて下さったのが、拙作の「幼子われらに生まれ」という無伴奏ヴァイオリン曲です。この曲は初演されてから11年のあいだ、一度も再演の機会を得ませんでした。大きな理由の一つはもちろん、弾きこなすのが大変だからです。滝さんの演奏は、納得がいくまで作品と向き合い、自分が奏でる音の中に音楽が生まれ出る瞬間に耳を澄まし、るべき音の姿を探求する、素晴らしいものでした。技巧が完璧なのはいうまでもありません。その技巧のすべてを作品に捧げるかのような真摯な演奏に、心を打たれたのです。

今回、グレゴリオ聖歌に基づく私の2つの作品とともに滝さんがプログラムに選んだのは、バロックと現代という一見両極端に位置する音楽です。名高い「シャコンヌ」を含むバッハの＜無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第2番＞をメインに、聖堂という特別な空間の中で、時代を隔てるこれらの音楽が、一本のヴァイオリンからどのように異なる響きを生み出し、また一体となって響き合うのか、その演奏に耳を澄ましてみたいと思います。

柿沼 唯



滝千春（ヴァイオリン）

5才よりヴァイオリンをはじめる。桐朋女子高等学校音楽科を経て、チューリッヒ芸術大学卒業後、ハンス・アイスラー音楽大学ベルリンを卒業。上西玲子、辰巳明子、ザハール・ブロン、サシュコ・ガヴリーロフの各氏に師事。

2001年、ノヴォシビルスク国際ヴァイオリン・コンクール（ジュニア部門）第1位。

2002年、ユーディ・メニューイン国際コンクール（ジュニア部門）第1位。2006年、ダヴィッド・オイストラフ国際ヴァイオリン・コンクール第3位。

2002年、桐朋学園音楽部門創立50周年記念演奏会のソリストに抜擢され、小澤征爾の指揮で協奏曲を演奏。2008年、紀尾井ホールにて清水和音との共演でデビュー・リサイタルを行う。2015年3月には高閑健指揮／京都市交響楽団と共に演、8月には、スイスのダボス国際音楽祭に招かれ、数多くのコンサートに参加した。また、ベルリン・フィルハーモニーにて石川星太郎指揮／新ベルリン交響楽団と共に演奏する。

高校在学中より本格的音楽活動を開始し、ソロ・リサイタルをはじめ、オーケストラとの共演、室内楽、チャリティ・コンサートへの出演、アウトリーチ活動など、国内外で積極的に活動を展開する若手実力派ヴァイオリニスト。優れた技術力と豊かな音楽性が高く評価されている。

2015年よりピクテ投信投資顧問株式会社のピクテ・パトロネージュ・プロジェクトのアーティストとして活動。アムステルダム在住。



柿沼唯（作曲）

東京芸術大学作曲科卒業。作曲を松村禎三、永富正之、和声・対位法・フーガを尾高惇忠の各氏に師事。1988年から約8年にわたり武満徹氏のアシスタントを務めた。日本交響楽振興財団第9回作曲賞入選。第3回「今日の音楽」作曲賞第2位入賞。第1回出光音楽賞受賞。これまで、セントルイス交響楽団、東京フィル、スロヴァキア室内合奏団、イギリス室内管弦楽団、プラハ交響楽団、ハイドン・フィルなど、国内外から作品の委嘱を受けている。近年はオルガン曲も数多く手がけ、《蓮花》('06)はヨーロッパ各地および日本でたびたび演奏されている。

また2010年には、サン=ベルトラン・ド・コマンジュ(フランス)のオルガン作曲コンクールで、《巡礼の笛》がMarcelle et Robert de Lacour財団賞を受賞した。2009年より聖グレゴリオの家教会音楽科講師を務める。